



# 確かな学力の向上をめざして【5月】

## ■ 児童生徒理解に基づいた教育活動の充実 ～児童生徒の言動の背景や要因に目を向けることの大切さ～

新年度になって1ヶ月が経過しました。多くの児童生徒は、学校生活に対する希望や満足感を抱きつつも、一方では、何かしらの不安や困り感を抱えながら生活していると思います。また、家庭生活での困りごとや悩みを引きずったまま登校してくることもあります。そのような場合、適切な解決策が見出せず、困った行動や問題行動として表出してしまうことがあります。子どもたちのそのような好ましくない言動の裏には、必ずと言っていいほど「自分のことを認めてほしい。」「分かってほしい。」という願いがあることを、私たちは心に留めておく必要があります。

児童生徒の抱える課題の背景や要因がどこにあるのかに目を向け、**共感的理解に基づく児童生徒理解**を心がけて、児童生徒に寄り添った指導や支援につなげていきましょう。

「～してはダメ」「やめなさい」と問題行動を禁止し、その子の行動をコントロールしようとする、叱責のくり返しになり、子どもは自信をなくし、ますます追い込まれることとなります。



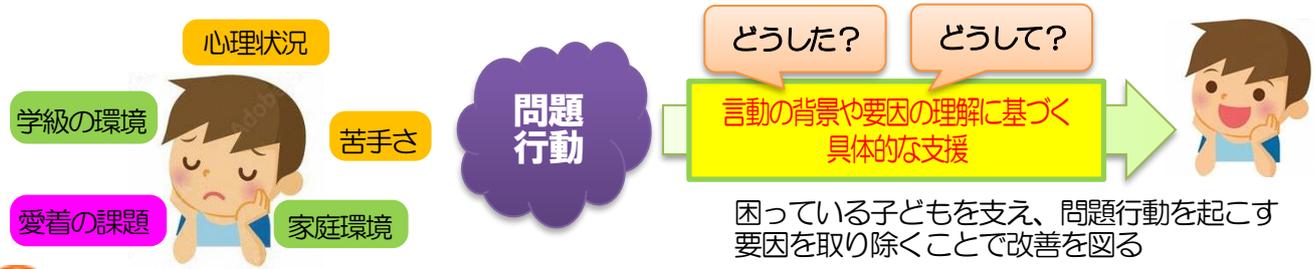
「やる気がない」「怠けている」「態度が悪い」「反抗的だ」という表面に表れていることだけを捉えて指導してもよくなるよ。



**困った行動や問題行動は、「児童生徒からのSOS」と捉えましょう！！**

- なぜ問題行動を起こすのか、行動の背景に目を向け、問題行動に結びつく理由を探りましょう。
- 子どもが抱える課題を解決できるようにするために、何ができるのか具体的に考えましょう。

⇒「どうした?」「どうして?」から始まる生徒指導・支援を心がける!



### Point

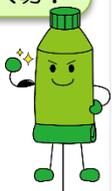
#### ◆具体的な接し方

- 児童生徒のよいところや強みをたくさん見つけましょう。  
児童生徒のやる気、指導・支援のヒントにつながります。
- 担任が、一番身近なモデルになりましょう。  
児童生徒等は担任の話す言葉やふるまいを真似ることが大好きです。
- 「なぜ」の視点で児童生徒の言動の背景を探りましょう。  
言動のみを評価せず、その背景(障がいの状態や発達段階、前後の事象等)に目を向けます。

小さなことでも、できていること、うまくいっていることに気づいて「認める」「ほめる」ことが大切!

意欲の向上

安心感



「特別支援教育の手引き」令和4年3月改訂 より抜粋



GW明けは、新年度になって頑張っていた児童生徒がしんどさや疲れを感じたり、やる気を失ったりしやすい時期です。小さな変化や些細なサインを見逃さないように意識しましょう!